

み言葉が開かれるクリスマスを

今年で、委員長を三年続けてすることになりました。そんなことを思いめぐらしていると、まず二つのことを感じました。まず私たちは、どんな働きでも担わなければならない時がやってくる、ということです。はじめて教会担当として、任命されたり、招聘されたときのことを思い出します。はじめて講壇に立たされた時のことを思い出します。別に牧師でなくても、初めて“奨励”をした時のことや、献金感謝のお祈りが順番ということで回ってきたときのことを思い出します。どうしたら良いのかよくわからないことや、これで良いのかな、ということがいっぱいです。けれども、神様の仕事というのは、そんなことにはお構いなく“ある人を、伝道者としてたてられる”という風にやってくるのです。企画をするのに、上手になるまで待っていたのでは、絶対に永遠に慣れないということでしょう。もう一つは、私の趣味や、私の信条からクリスマスをやっているのではない、ということです。“今年、市民クリスマスを我々の教会は担うのか。考え、確認して下さい”ということが、予算総会の議題にされまし

た。決して“うちの牧師はクリスマスが好きで・・・”とは言わないことを、確認しました。ですから、草薙教会がクリスマス実行委員会に参加しているという、ごく当たり前のことです。このことは実行委員会に集う各教会にも、改めてわかってほしいことです。沢山のトラクトとポスターが余っています。今年は改めたいものです。

毎年“沢山集うように”と言葉にしますが、それは“主にあって”という条件が付けられていることを、忘れないようにしたいものです。ただ沢山の人に来やすいことを求めるのでしたら、イエス様を口にしないことかもしれません。そして有名なゴスペル・シンガーか、アイドルを招けばよいことになってしまいます。十字架のことを口にするのは恥ずかしい。誰も来てくれない、と思ったら、そこから福音が消えて行くのではないのでしょうか。**“み言葉が伝えられるクリスマス”**期待しましょう。豪華なクリスマスイベントをするような力も財力も私たちにはないのですから。デパートに任せましょう。柔らかな着物の人は王の家にあります（マタイ10:8）。救いに関する聖書の方が、豪華なのです。（村上）